

知識を知恵に変える方法（その3）

- 【Ⅰ】 差の情報によって意思決定する。
- 【Ⅱ】 価値の方向とキーワードを目に見えるようにする。
- 【Ⅲ】 落ちのない段階的な手順を創り出す。
- 【Ⅳ】 「何を」の対象の構造・構成イメージを創り出す。
- 【Ⅴ】 これを実現するための体制と手順を示す実施計画書を創り出す。

【Ⅲ】 落ちのない段階的な手順を創り出す。

PMDで把握した大まかな手順を落ちなくする方法が何種類かある。

その一つが「ステップリストマネジメントの方法」と呼ばれる手法である。

別名「段階的手順」と言われ、何をしたいのかの焦点が絞り込まれている場合は、いきなりこの段階からスタートするのもよい。

落ちのないインプットとアウトプットの因果関係の要素項目を落ちなく抽出するためには次の認識が大事である。要するに段階的に意思決定を確実に行うための手法である。そのためには「四つの箱の認識」という整理の仕方がある。それを「おいしいご飯の炊き方」を例にとって解説してみよう。

① インプット項目

例；米・水・火

②-1 アウトプットのための事前保証活動

例；飯炊き作業

②-2 インプット項目を使ってアウトプット項目を創り出す作業項目

例；（保証条件）火加減と時間

③ アウトプット項目

例；炊きあがった飯

④-1 アウトプットのための事後保証活動

例；試食で確認

④-2 アウトプット項目を次の段階のインプット項目に使えるようにする作業項目

例；（保証条件）顧客の好みを知っていること

インプット		アウトプット	
項目①	事前保証活動②-1	項目③	事後保証活動④-1
項目①	保証条件②-2	項目③	保証条件④-2

四つの箱の概念構成は以上の通りであり、これを順次連結して落ちのない段階作業項目を抽出すればよい。どのような思考も作業もインとアウトの繰り返しと捉えてリスト化する、すなわちステップリストと呼ばれる所以がここにある。

連結させた四つの箱の認識をステップリストの構成として表現すると次のようになる。

基本ステップ	ステップ内容	インプット				アウトプット	
		項目	事前保証活動	項目	事後保証活動	他の条件	承認記録
①着想のための第一情報収集	→	→	→	→	→	②へ進む	
②着想	→	→	→	→	→	③へ進む	
③構成化	→	→	→	→	→	④へ進む	
④構成化裏付の第二次情報収集	→	→	→	→	→	⑤へ進む	
⑤基本設計または基本事項	→	→	→	→	→	⑥へ進む	
⑥詳細設計または詳細事項	→	→	→	→	→	⑦へ進む	
⑦試作または試行	→	→	→	→	→	⑧へ進む	
⑧是正及び見直し	→	→	→	→	→		

①から④の段階は「いろいろ考えてこうしようとする段階」で、いわゆる帰納アプローチで、⑤から⑧の段階は「考えたことを実施する段階」で、いわゆる演繹アプローチである。

①から⑧までを縦になぞることが、目標を実現するための落ちのない段階的作業であり、表を横になぞることが、各段階の要素項目を落ちがないように関係づける枠組みである。

概念のなかにあるものを具体的に目に見える形で手順化することは大変重要である。これを習慣づけることに少し努力を傾注するだけで随分違った結果が見えるし、自分の能力に自身が持てるようになるものと確信する。すなわち「旨い飯を作れるようになる」のである。

(以下次号)